

オンデマンドバス車両の更新

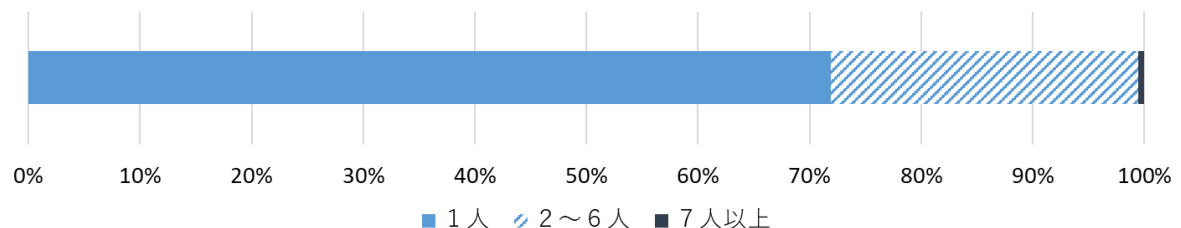
【背 景】

平成 25 年にスタートしたオンデマンドバスは 10 年目を迎え、当初から使用している車両の更新を行う時期に来ている。現在の車両は運転手を含めて 13 人乗りのハイエースである。2024 年問題を契機とする運転手不足や、同時に乗車できる人数は多いものの 1 人での利用が大半を占めることなどが課題となっている。このような状況を踏まえ、現在の利用状況を調査し、新たに導入する車両はどのようなものが望ましいか検討を行った。

【利 用 状 況】

令和 5 年度の利用状況を確認すると、2 人以上の乗合件数は 1,758 件で、乗車件数全体の 28.1%だった。6 人までの乗合が乗合件数全体の 98.2%に達するのに対し、7 人以上の同時乗車は 1.8%にとどまる。また、一度の予約における最大人数は 9 人だった。

乗車人数ごとの割合



【検 討】

更新車両は現行よりも小型であり普通免許で運転できる 7 人乗りとしたい。

オンデマンドバスの持続性を考える際に、運転手の確保は最も重要な要素のひとつとなる。現在の 13 人乗りワゴン車の運行には中型免許が必要となるが、免許の取得率は下降を続けており、人材確保が難しくなっている。普通免許で運転可能な車両を導入することによって運転手の確保が図られると同時に、小回りも効くようになる。

また、1 人での利用が多いことから 5 人乗りの普通自動車についても検討したが、小学生らが通学に利用しており、学校が終わる時間に予約が集中することがあるため、7 人乗りの車両を選定した。この定員であれば、1 台で利用件数全体の約 98%をカバーすることができ、2 台目で残り 2 %もカバーできることから運行に大きな支障はないと想定される。